

| 科目名 | 担当者名 | 配当 | 期 | 単位 |
|-----|------|---------|----|----|
| 行政学 | 田丸大 | 1・2・3選必 | 前期 | 2 |

■講義内容■

行政学の狙いは、行政制度および行政現象を貫く基本的な論理や法則を習得し、問題の性格及び本質を見抜く知識と思考能力を身につけることにある。

例えばゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の大震災や原子力発電所の事故対応、さらには金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活と関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。

このように現実の世の中と深く関わる行政学を学ぶには、社会で起こっている出来事をよく観察し、それを理論と結びつけて理解することが大切である。そこで、講義では、ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論（考え方・法則）と実際の事例（ニュースなど）との関連に特に注意を払う予定である。

全回数のうち半分程度（7、8回）は、ディベート等に当てようと考えている。そのため、集中的に作業に専念できるよう、土日祝日を終日用いて、2日程度朝から夕刻まで講義を行うことも予定している。学生とのスケジュール調整は行うが、以上のような休日でのディベート集中作業（講義）があり得ることを理解して、履修して欲しい。

■シラバス■

<科目のねらい>

行政学は我々の日常生活とも非常に関係の深い学問である。イメージしやすい最近の例を挙げれば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の震災や原発事故対応、金融危機における経済政策など、世の中の様々な現象に何らかの形で行政は関わっている。これらの行政現象に流れる行政活動の論理を探ることが、行政学の大きなテーマである。

講義では、国の省庁や地方の自治体がどのようなメカニズムに基づき活動しているのかという点を最大のテーマとして、政策の立案や決定・執行など政策のサイクルにも触れつつ、現代の行政活動の特質を検討することにより、複雑な現代社会の問題点や行政改革のあり方を的確に理解し、問題の本質を見抜くための基本的知識や思考様式を伝えたいと考えている。

<科目の内容>

前半7回程度の講義においては通常の講義スタイルを、後半8回程度の講義においては、ディベート・パネルディスカッション・研究発表などのいわゆるゼミ形式を予定している。前半7回程度の講義においては、広く行政に関連するニュース番組のビデオ等を用いて、行政学の導入に役立てることにしたい。各回の講義計画は、以下のとおりである。

なお、可能であれば、実務家（公務員など）をゲストに招き、学生との意見交換の機会を設けたいと考えている。

第1回 行政学・公共政策とは何か

行政学とはどのようなものであるか、法学部の中の位置づけを踏まえながら説明を行う。とりわけ、理論・法則と事例・世の中のニュースとの接点に多く注目するものであることを確認する。以下、数回の講義も含めて、導入としてビデオ教材などを多く用いる予定である。

第2回 政府・行政の役割とは

人々の集団生活においてなぜ政府や行政は必要であるのかといった点について、公共財の理論あるいは公共経済学の主張も取り入れながら説明をする。

第3回 行政・公共政策を見る3つの視点

導入段階の最後として、行政・公共政策を観察する際の3つの視点について紹介する。行政学は、憲法・行政法といった公法、あるいは政治学、さらには経営学・社会学・心理学などとも接点をもった学際的な学問であることを理解してもらう予定である。

第4回 行政国家の成立

自由放任主義、行政国家、福祉国家、新保守主義などを取り上げ、近代そして現代社会においてなぜ行政活動が飛躍的に増大したのかを探る。

第5回 福祉国家の成立と変容

第4回の講義を踏まえ、とくに福祉国家に焦点をあて、その成立と理念、さらに福祉国家の理念が曲がり角を迎えた点について理解を踏まえ、次回以降の行政改革の理論を理解するための基礎を提供する。

第6回

1980年代以降、世界の主要国において実施された行政改革の理論を扱う。規制緩和、民営化の実態を観察し、またニュー・パブリック・マネジメントなどの議論を紹介する。

第7回 政策決定と政治家・官僚関係

これまで日本の中央政府において支配的であった政策決定のスタイルを取り上げ、その問題点および改革の方向性について説明する。具体的には、議院内閣制の発動方式、経済財政諮問会議等の活動、内閣提出法案の作成過程などについて取り上げる。

第8回 地方自治と地方分権改革

近年の地方分権改革を中心に取り上げる。機関委任事務制度、地方財政、地方分権推進委員会の活動などを取り上げる。

第9回から第14回 ゼミ形式の講義

後半の講義はゼミ形式で行う。ディベート・パネルディスカッション・研究発表など考えている。

「講義内容」や「科目のねらい」でも示したとおり、現実の世の中と深く関わる行政学を学ぶには、社会で起こっている出来事を敏感に吸収し、それを理論や考え方と結びつけて理解することがまず重要である。

そのうえで今度は、自らの意見を明確にもち、それを他者に向かってポイントを押さえて分かりやすく説明することも肝要であると思われる。そこで、複数の政策テーマを取り上げ、ディベート・パネルディスカッション・研究発表を行ってみたいと考えている。

取り上げる政策テーマについては学生と相談しつつ決めるが、現在のところ（このシラバス作成時点では）例えば、救急車有料化の是非、消費税引き上げの是非など、我々の生活に身近であって、かつ議論がわかれるものにしたと思う。

講義内容で述べたように、ディベート作業のため、休日に2日ほど終日講義があり得ることを予定して下さい。

第15回 定期試験

<教科書>

森田朗『現代の行政（改訂版）』（放送大学教育振興会、2000年）2,100円、ISBN9784595830846

さほど頻繁に使用しない予定である。適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。

<参考書>

早川純貴・内海麻利・田丸大・大山礼子『政策過程論－「政策科学」への招待』（学陽書房、2004年）2,730円、ISBN9784313320352